

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 45 号(平成 29 年 2 月発行)

平成 28 年 12 月 6 日(火)に平成 28 年第 4 回定例会が開会され、12 月 22 日(木)に一般質問と議案 4 件の審議が行われました。

一般質問では、樋口博己議員(四日市市議会選出)と彦坂公之議員(三重県議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

樋口 博己 議員



○ 「四日市港温室効果ガス削減方針」の策定に当たって、取り組んだ背景と考え方について、また、同方針に基づく具体的な取組を伺いたい。

◎ 温室効果ガスについては、京都議定書において先進国全体に削減目標が定められ、港湾においても、対策が求められた。このような背景の中、管理組合では、20 年後の将来像の一つとして「環境にやさしいみなと・四日市港」を掲げ、温室効果ガスの削減を図ることとし、行政機関に加え、港湾事業者なども参画した、温室効果ガスの削減を目的とする協議会としては全国の港湾で初となる「四日市港温室効果ガス削減推進協議会」を設立し、「四日市港温室効果ガス削減方針」を策定した。この方針に基づき、停泊中の船舶に電力を供給する陸上電力供給施設の整備を行うなど、船舶、荷役、照明・空調などの港湾施設、輸送などから発生する温室効果ガスを削減する発生源対策、発生した温室効果ガスを吸収する干潟や緑地の保全に取り組む吸収源対策、陸上輸送距離の短縮による、背後圏における削減対策を進めていく。

彦坂 公之 議員



○ 大型客船誘致の取組の現状について、客船誘致の課題と客船誘致協議会としての取組、特に県との連携について伺いたい。

◎ 客船誘致に関する取組は、四日市商工会議所を事務局とし、三重県や四日市市、管理組合などが委員として参画している「四日市港客船誘致協議会」が中心となって進めている。外国の船会社にとって寄港地としての認知度が低いという課題に対しては、三重県や四日市市の観光施策と連携しながら、海外の船会社等へプロモーションを行っていく必要がある。県内には、伊勢神宮や伊賀流忍者、鳥羽・志摩の海女文化など外国人観光客に人気のあるスポットが数多くあり、そのような観光資源をセールスポイントとして、三重県が進める海外プロモーションなどのインバウンド戦略とも連携し、できる限り早期に、外国客船の寄港を実現させ、観光産業をはじめとした地域の振興につなげていきたい。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。